

監修にあたって

『歯科衛生学辞典』の初版から5年が経過し、令和4年度には歯科衛生士国家試験出題基準と歯科衛生学教育コア・カリキュラム（教育内容ガイドライン）の改訂がありました。この間、全国歯科衛生士教育協議会では、歯科衛生士の養成教育の充実を図るため、「歯科衛生」を定義し、これを理論と実践の両面から探求する学問体系を、基礎歯科衛生学・臨床歯科衛生学・社会歯科衛生学の3つの分野から構成される「歯科衛生学」と位置づけ、2023年度からは歯科衛生士の教科書も業務マニュアル的な「歯科衛生士教科本シリーズ」から「歯科衛生学シリーズ」という学術的なタイトルにすべて変更したところです。

今回の改訂は、このような背景のもと、国家試験出題基準やコア・カリキュラムおよび新シリーズの教科書に採用された学術用語と歯科保健医療の現場で使われるようになった新たな用語を採用し、その解説を専門分野ごとに研究者と教育担当者に依頼し、最終的には全国歯科衛生士教育協議会の理事に就任なさっている、歯科衛生士養成機関の教職担当者に監修をお願いして完成したものです。監修においては、掲載用語の適切性から用語解説の正確性まで、分野ごとに複数回にわたって検討いただきました。

これからの新しい「歯科衛生学」教育に必要な用語とその知識を網羅していますので、本辞典が歯科衛生士教育のみならず、歯科衛生業務実践の臨床の場においても幅広く活用されることを期待しております。

2024年1月

一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 理事長
東京歯科大学名誉教授
眞木 吉信

凡 例

- 見出し語ならびに対応する外国語は青のゴシック体で表記し、その読みは黒のゴシック体で記した。
- 専門用語・使用漢字は「令和4年版歯科衛生士国家試験出題基準」に準拠し、出題基準にない場合は、歯科衛生士教育で一般的に使用されている用語を使用した。
漢字の例) 蝕→蝕, 頬→頬, 剥→剥, 填→填, 嚢→嚢など
- 見出し語は外国語の略称なども含めて五十音順に掲載した。
- 長音符号「ー」は、その発音がア・イ・ウ・エ・オのいずれによるかによって、その音を示す仮名と同じ順に記した。
- 一般用語や補足が必要な用語は、見出し用語の【】内に説明を追記した。
例) 安全域【薬物の】、計画立案【歯科衛生過程の】など
- 外国語の人名は原則として欧文表記とした。
- 細菌名のアルファベット表記についてはすべてイタリック体とした。
- 薬品名は原則として一般名で表記した。例外的に商品名に®マークを付けて記した。
- 同義語は「≡」、関連語は「➡」で示した。
- 見出し語にかかわる外国語表記に関しては、略称も含め、巻末の欧文索引でアルファベット順に引けるようにした。
- 巻末付録として、解説の参考となる図表を掲載した。図表を参照するものは、解説文の終わりに【巻末図1参照】などと示した。

superior, industrial hygienist 総括安全衛生管理者の指揮を受け、事業場の衛生に関わる技術的事項を管理する者。常時50人以上の労働者を使用する事業場において、事業の規模や業種に応じて一定数を選任することが労働安全衛生法にて規定されている。

衛生教育 えいせいきょういく **health education** ■健康教育

衛生行政 えいせいきょうせい **public health administration** 国民の健康の保持増進を目的に、家庭や地域社会の生活を対象として国や地方公共団体が行う行政で、厚生行政とも呼ばれる。医事、薬事、保健予防、環境衛生、食品衛生などの領域を扱う。

HRA えいちあーるえー **health risk appraisal** ■健康危険度評価法

HIV えいちあいぶい **human immunodeficiency virus** エイズを発症するレトロウイルスのこと。ヒトのTリンパ球に感染することにより免疫不全を引き起こす。■ヒト免疫不全ウイルス ■エイズ

HIV 関連歯周炎 えいちあいぶいかんれんししゅうえん **HIV-related periodontitis** HIV (human immunodeficiency virus: ヒト免疫不全ウイルス) 感染者では、高頻度で歯肉の壊死や骨吸収などを伴う壊死性潰瘍性歯周炎を認める。HIV感染者の特徴的な口腔内所見として、壊死性潰瘍性歯周炎、カンジダ症、カポジ肉腫が挙げられる。

HCV えいちしーぶい **hepatitis C virus** 五類感染症。C型肝炎ウイルスに感染した肝炎。感染経路は、血液による直接感染である。慢性肝炎のうち、約70%がC型肝炎で、感染してから約30年以上以降に肝硬変、ひいては肝癌に進行しやすい。

■C型肝炎

H₂ 受容体拮抗薬 えいちつーじゅうようたいきつこうやく **histamine H₂ receptor antagonist** ヒスタミンのH₂受容体に作用して、競合的に拮抗する薬物。胃の壁細胞に存在するH₂受容体でヒスタミンと競合的に拮抗し、胃酸の分泌を抑制する。胃潰瘍の治療に用いる。

HDS-R えいちいでーえすあーる **Hasegawa's dementia scale revised** ■改訂長谷川式簡易知能評価スケール

HBV えいちびーぶい **hepatitis B virus** 五

類感染症。B型肝炎ウイルスに感染した肝炎。注射針、メスなどに付いた血液を介して感染する肝炎で、感染力が強く、まれに劇症肝炎となる。抗体がない場合、感染予防のために、歯科医療従事者のワクチン予防接種は必須である。■B型肝炎

Hファイル えいちふあいる **H-type file, H file, Hedstroem file** ■Hedstroemファイル

HVL えいちぶいえる **half-value layer** ■半価層

H₁ 受容体拮抗薬 えいちわんじゅうようたいきつこうやく **histamine H₁ receptor antagonist** ヒスタミンのH₁受容体に作用して、競合的に拮抗する薬物。抗ヒスタミン薬とも呼ばれ、アレルギー反応を抑制する。■抗ヒスタミン薬 ■抗アレルギー薬、ジフェンヒドラミン塩酸塩

鋭匙型スケアラ えいひがたすけあら **curette type scaler** ■キュレット型スケアラ、ペリオドンタルキュレット

栄養アセスメント えいようあせすめんと **dietary assessment, nutritional assessment** 種々の栄養指標を用いて個人、あるいは集団の栄養状態を評価・判定すること。アセスメントの方法としては、身体計測、生化学検査、臨床診査、食事調査などから得た情報を基に総合的に判断する。■食事診断

栄養価 えいようか **nutritive value, nutritional value** 食品の栄養的価値。食品100gあたりのカロリーや、含有する栄養素(タンパク質、脂肪、炭水化物、ビタミン、無機物質、繊維質など)の質や量として表す。

栄養過剰 えいようかじょう **overnutrition** 摂取した栄養素の量が、体内で利用されるより多い場合をいう。過食によっても起こるが、経管、経腸栄養で与えすぎた場合でも起こる。また栄養剤や栄養補助食品の過剰摂取でも生じる。運動量とのバランスも大切である。

栄養管理 えいようかんり **nutrition management** 対象となる個人もしくは集団に対して適正な栄養目標量に基づいて栄養摂取をさせること。一般食では食事摂取基準を、経管、経腸栄養で与える治療食では疾患に効果を有する食事内容さらには経管栄養剤の使用も含め、多職種で状況を評価しながら良好な栄養状態を達成

すること。■栄養指導

栄養ケアマネジメント えいようけあまねじめんと **nutrition care management** ヘルスケアサービスの一環として、対象者の栄養状態を判定し、改善すべき問題点を抽出し、最適な栄養ケアを行うための体制やシステム。■栄養指導

栄養サポートチーム えいようさぽーとちーむ **nutrition support team (NST)** 保険医療機関内で構成された栄養管理専門の医療チームのこと。医師、歯科医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、歯科衛生士などが参加する。低栄養、経口摂取への移行目的として経腸栄養している患者などを対象とし、カンファレンスや回診を行い、最適な栄養摂取法の提案やフォローアップをする。また院内での啓発活動なども担当する。■NST

栄養士 えいようし **dietitian** 栄養士法に基づき、栄養士の名称を用いて栄養摂取の指導を行う。都道府県知事免許を受けて従事することができる。

栄養失調 えいようしつちょう **malnutrition**

■低栄養

栄養指導 えいようしどう **nutrition guidance, nutrition counselling, nutrition education** 対象者に栄養の知識を伝え、食生活に関する具体的な指導や援助を行い、健康の維持・増進、あるいは疾病の予防・回復を目指す活動をいう。栄養士だけでなく、歯科臨床では歯科衛生士も行う。■栄養管理、栄養ケアマネジメント、食事指導

栄養所要量【1日あたりの】 えいようしゅようりょう **daily dietary allowance, daily nutritional requirement** 健康な個人ならびに集団を対象にして、国民が健康を維持し、十分な生活活動を営むために摂取することが望ましい量として、1969年に科学技術庁が策定した。2005年から名称と概念を変更して食事摂取基準とした。

栄養摂取量 えいようせつしゅりょう **nutrient intake** 各栄養素がどれだけ摂取されているかを示す。日本人の栄養摂取量は、毎年、厚生労働省が行っている国民健康・栄養調査の結果として公表されている。不足すれば乏血症、過剰でも肥満、高血圧、糖尿病などの健康障害が起こる。

栄養素 えいようそ **nutrient** 外界から体内に取り込まれ、エネルギーや生体構成

物など、生物がその生命活動に必要とする物質のこと。糖質、脂質、タンパク質を三大栄養素といい、これにビタミン、ミネラルを加えて五大栄養素という。

栄養素等摂取量 えいようそとうせつしゅりょう **quantity of nutrient intake** 厚生労働省が毎年行っている国民健康・栄養調査の結果から得られる栄養摂取状況のこと。1人1日あたりの栄養素および食品群の種類別摂取量を全国および地域ブロックごと、男女・年齢階級別に、またその推移も調べられる。

栄養素の吸収 えいようそのきゅうしゅう **absorption of nutrients** 消化された栄養素の大部分は小腸で吸収され、一部は大腸でも吸収される。糖、アミノ酸、中鎖脂肪酸は血管内に入り、肝臓を経て全身に供給される。一方、長鎖脂肪酸はリンパ管に入り胸管から血管に入り、全身に供給される。

栄養素の消化 えいようそのしょうか **digestion of nutrients** 食品から摂取した栄養素を消化管で吸収できる大きさの分子にまで変えることを消化いう。主に消化管から分泌される消化酵素によって行われる。糖質はオリゴ糖や単糖へ、脂質は脂肪酸とグリセリンへ、タンパク質はペプチドやアミノ酸へと消化される。

栄養チューブ合併症 えいようちゅうぶ **feeding tube** 経腸栄養法(経鼻経管栄養法・経瘻孔法)で用いられる管のこと。経腸経管栄養では5~12Fr(フレンチ, 3Fr=1mm)程度の太さのチューブが使用される。また、胃瘻で用いられるチューブにはバルーン型とバンパー型がある。

栄養チューブ合併症 えいようちゅうぶがっぺいしゅ **feeding tube complications** 栄養チューブが原因となる合併症。咽喉や口腔内に逆流した胃内容物や唾液を誤嚥したことがよって起きる誤嚥性肺炎が最も重篤な合併症である。そのほかにチューブ固定の不備によるびらんや潰瘍の形成などがある。

栄養必要量 えいようちゅうりょう **nutritional requirement** 健康の維持・増進、生活習慣病の予防を目的として厚生労働省が策定した食事摂取基準で、1日に摂取することが望ましいエネルギーや各種栄養素(タンパク質、脂質、炭水化物、ビタミン、ミネラル)について表したものの。

態を含む現象。 **☑** 口腔乾燥症

☑ 口腔乾燥症 こうくうかんそうしやう xerostomia, xerosyomiasis 唾液分泌の阻害, 減少により口腔内の粘膜が乾燥した状態を表した症名である。原因は、全身的には脱水, 糖尿病, シェーグレン症候群, 薬物, 情緒的因子などがあり, 局所的には唾液腺の炎症・腫瘍, 放射線障害, 唾液腺管の通過障害などがある。老年者・要介護者では, 唾液分泌抑制の副作用のある薬剤を服用している場合がある。症状は口渇感, 灼熱感, 口腔粘膜の萎縮, 歯肉腫の進行, う蝕多発, 咀嚼・嚥下障害などがある。処置は, 原因の除去と含嗽, 人工唾液使用などの対症療法を行う。ドライアイと異なり, 明確な検査法と診断基準はない。 **☑** ドライマウス **☑** 口腔乾燥感, 唾液分泌障害

☑ 口腔関連 QOL モデル こうくうかんれんきゅーおーえるもでる oral health-related quality of life 1990 年代以降, 口腔保健関連 QOL 指標 (oral health-related QOL) が提案されてきた。これらの構成要素は, ①咀嚼・発話などの機能的要素, ②審美性に関わる心理的要素, ③コミュニケーション, 社会的活動などの社会的要素, ④疼痛や不快症状の 4 つの要素をまとめることができ, 口腔の健康を住民・患者側立場で評価するものである。患者自身の気持ちや受け取り方を重視する主観的な評価の割合が大きく, 代表的な尺度に GOHAI, OHIP などがある。

☑ 口腔機能維持管理加算 こうくうきのうじかんりかさん additional fee for maintenance and management of oral function 口腔機能維持管理体制加算を算定している施設の入居者に対して, 歯科衛生士が口腔ケアを実施した場合に算定する。算定に際し, 歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が, 対象者の口腔ケアの方法を含む口腔の問題などを実施記録に記入する必要がある。

☑ 口腔機能回復治療 こうくうきのういかいふくちりょう oral rehabilitation 咬合治療, 修復・補綴治療, 歯周補綴治療, 歯周一矯正治療, インプラント治療などによる口腔機能の回復を目的とする治療の総称。歯周基本治療後, あるいは修正期治療後に必要に応じて行われる。

☑ 口腔機能管理 こうくうきのうかんり oral rehabilitation and functional care 口腔

機能の回復および維持向上を目的に行うセルフケア, プロフェッショナルケアおよびコミュニティケアの総称。嚥下体操, 舌のストレッチ訓練, 摂食機能療法などがある。 **☑** 機能的口腔ケア **☑** 口腔健康管理

☑ 口腔機能訓練 こうくうきのうくんれん oral function training, oral function exercise 「食べる」「話す」「呼吸する」「表情をつくる」など口腔がもつ機能の維持, 向上を図ること。口腔周囲筋のストレッチや唾液腺マッサージなどがある。

☑ 口腔機能向上サービス こうくうきのうじょうきーびす oral function improvement service 通所サービスを利用する高齢者に対して, 言語聴覚士, 歯科衛生士または看護職員 (サービスマン) と介護職員などの関連職種が協働し, 口腔機能・口腔衛生状態に関するアセスメントを行い, 指導すること。

☑ 口腔機能向上プログラム こうくうきのうじょうじょうぶるぐらむ oral function improvement program 嚥下障害を含む口腔機能・口腔衛生状態が低下した高齢者に対して, 要介護状態の予防を目的とした介護予防サービスとして提供される。一般的に歯科衛生士らが看護職員, 介護職員らと協働して実施される。

☑ 口腔機能低下症 こうくうきのういかいしょう oral hypofunction 加齢などにより口腔内の「感覚」「咀嚼」「嚥下」「唾液分泌」などの機能が低下してくる症状を表す。口腔機能低下は, 健康にさまざまな悪影響を与えるため, 機能の維持, 改善が重要である。保険病名としても記載され, 摂食嚥下障害の手前であり一般開業医で対応するレベルの重症度の状態をさす。 **☑** 口腔機能発達不全症

☑ 口腔機能の評価 こうくうきのうひょうか evaluation of oral function 補食, 咀嚼, 食塊形成, 唾液分泌, 発音など口腔がかわるさまざまな運動や機能を評価すること。口腔環境の評価, 口唇や舌の運動, 咬合状態など個別の口腔機能の評価, 咀嚼や嚥下にかかわる統合的な口腔機能の評価に分けられる。

☑ 口腔機能発達不全症 こうくうきのうはったつふぜんしょう impaired development of oral functions 「食べる機能」「話す機能」「その他の機能」が十分に発達していないか, 正常に機能獲得ができていない小

児で明らかな摂食機能障害の原因疾患がなく, 口腔機能の定型発達において個人因子あるいは環境因子に専門的関与が必要な状態。 **☑** 口腔機能低下症, 口唇閉鎖力

☑ 口腔機能療法 こうくうきんきのうりょうほう oral myofunctional therapy 歯列を取り巻く口腔周囲筋の機能を改善する訓練法のこと。口腔周囲筋の訓練, 咀嚼・嚥下・発音の訓練, 口唇・舌の姿勢位の訓練など, 筋の緊張や弛緩を取り除き, 筋バランスを整え, それを維持することを旨とする。 **☑** MFT

☑ 口腔ケア こうくうけあ oral health care ブラッシングを中心とした歯・口腔の清掃による器質的アプローチから, 唾液分泌能や舌運動機能の改善などの機能的アプローチまでを含めた, 口腔に対する総合的な対応を表す言葉として一般的に用いられる。

☑ 口腔ケアジェル こうくうけあじょうじえる oral health gel 研磨剤・発泡剤を含まないジェルタイプの口腔潤滑剤。歯ブラシやスポンジブラシに付けて, 乾燥した歯面, 粘膜, 舌などの口腔内のケアに使用することで清掃性が向上し, 粘膜の損傷を予防する。潤滑効果が長く持続し, 粘度が高いため咽頭部への流れ込みが少なく, 誤嚥を起こさにくく。 **☑** 口腔保湿剤

☑ 口腔ケア用品 こうくうけあようひん oral health care products 口腔ケアとは, 口腔環境と口腔機能の維持・改善を目的としたすべての行為をさす一般用語として位置づけられており, そのために用いる用具を口腔ケア用品という。

☑ 口腔健康管理 こうくうけんこうかんり oral health care 口腔清掃を含む口腔環境の改善から摂食嚥下の機能回復や維持・増進さらには治療処置まで, すべての歯科医療行為を含むものを一般的に「口腔ケア」と呼ぶことが多かったが, 老年歯科医学会では日本歯科医学会と連携を取り, 学術用語として, 口腔清掃を含む口腔環境の改善など口腔衛生に関わる行為を「口腔衛生管理」, 口腔の機能の回復および維持増進に関わる行為を「口腔機能管理」とし, この両者を含む行為を「口腔健康管理」と定義した。 **☑** 口腔衛生管理, 口腔機能管理

☑ 口腔潤滑剤 こうくうしつじゅんざい oral

moisturizer **☑** 口腔保湿剤

☑ 口腔習癖 こうくうしゅうへき oral habit 口腔の習癖には, 指をくわえ吸引する母指吸引癖, 上下前歯の間に舌先を突き出す舌突出癖・弄舌癖, 口唇を吸う吸唇癖, 口呼吸などがある。これらの習癖は, 不正咬合や口呼吸の原因になるほか, 発音や嚥下にも悪影響を及ぼす。 **☑** 口腔習癖, 不良習癖

☑ 口腔常在菌 こうくうじょうざいきん oral indigenous bacteria **☑** 口腔常在微生物

☑ 口腔常在微生物 こうくうじょうざいびせいぶつ oral indigenous microorganism, oral commensal microorganism 口腔内を生活環境として生息している細菌。外来微生物の侵入・定着を防ぎ, 口腔を健康な状態を保つ。部位によって微生物叢を構成する微生物の割合は異なるが, 種類は基本的に類似しており, *Streptococcus*, *Actinomyces*, *Veillonella*, *Fusobacterium* などの多種多様な細菌からなる。う蝕や歯周病の原因となる微生物も, ほとんど口腔常在微生物である。 **☑** 口腔常在菌 **☑** 口腔微生物叢, 歯垢微生物叢, 常在菌叢

☑ 口腔心身症 こうくうしんしんしやう oral psychosomatic disease 原因不明で難治性の口腔・顎顔面領域に生じる慢性疼痛, 違和感などのこと。発症や経過に心理社会的因子が関連していることが多く, 精神疾患との鑑別が重要となる。舌痛, 顎関節の疼痛, 違和感, 顔面部痛などの訴えが多い。抗不安薬の投与や自律訓練などの治療法がある。

☑ 口腔水分計 こうくうすいぶんけい oral moisture meter 舌の粘膜上の湿度を簡便に検査するのに用いられる測定機器で, 口腔乾燥に関連した検査の一つである。口腔水分計を舌背の粘膜に 2 秒間押し当てて測定し, 30 以上は正常, 29 未満は乾燥傾向, 25 未満は重度乾燥と判定される。

☑ 口腔清掃 こうくうせいそう oral cleaning, mouth cleaning, oral prophylaxis 歯ブラシによる歯磨きや薬液による洗口, 歯間清掃用具などによる口腔の清掃のみならず, 舌や頬粘膜などの口腔粘膜, あるいは義歯の清掃まで含めたものである。歯垢を取り除き, 口腔内を清潔に保ち, う蝕, 歯周疾患などの歯科疾患の予防のため

永久歯																																			
① Zsigmondy/Palmer法	<table border="1"> <tr><td>8</td><td>7</td><td>6</td><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td><td> </td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td></tr> <tr><td>8</td><td>7</td><td>6</td><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td><td> </td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td></tr> </table>	8	7	6	5	4	3	2	1		1	2	3	4	5	6	7	8	8	7	6	5	4	3	2	1		1	2	3	4	5	6	7	8
8	7	6	5	4	3	2	1		1	2	3	4	5	6	7	8																			
8	7	6	5	4	3	2	1		1	2	3	4	5	6	7	8																			
② FDI法	<table border="1"> <tr><td>18</td><td>17</td><td>16</td><td>15</td><td>14</td><td>13</td><td>12</td><td>11</td><td> </td><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td></tr> <tr><td>48</td><td>47</td><td>46</td><td>45</td><td>44</td><td>43</td><td>42</td><td>41</td><td> </td><td>31</td><td>32</td><td>33</td><td>34</td><td>35</td><td>36</td><td>37</td><td>38</td></tr> </table>	18	17	16	15	14	13	12	11		21	22	23	24	25	26	27	28	48	47	46	45	44	43	42	41		31	32	33	34	35	36	37	38
18	17	16	15	14	13	12	11		21	22	23	24	25	26	27	28																			
48	47	46	45	44	43	42	41		31	32	33	34	35	36	37	38																			
③ ADA法	<table border="1"> <tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td> </td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td></tr> <tr><td>32</td><td>31</td><td>30</td><td>29</td><td>28</td><td>27</td><td>26</td><td>25</td><td> </td><td>24</td><td>23</td><td>22</td><td>21</td><td>20</td><td>19</td><td>18</td><td>17</td></tr> </table>	1	2	3	4	5	6	7	8		9	10	11	12	13	14	15	16	32	31	30	29	28	27	26	25		24	23	22	21	20	19	18	17
1	2	3	4	5	6	7	8		9	10	11	12	13	14	15	16																			
32	31	30	29	28	27	26	25		24	23	22	21	20	19	18	17																			

乳歯																							
① Zsigmondy/Palmer法	<table border="1"> <tr><td>E</td><td>D</td><td>C</td><td>B</td><td>A</td><td> </td><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td><td>E</td></tr> <tr><td>E</td><td>D</td><td>C</td><td>B</td><td>A</td><td> </td><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td><td>E</td></tr> </table>	E	D	C	B	A		A	B	C	D	E	E	D	C	B	A		A	B	C	D	E
E	D	C	B	A		A	B	C	D	E													
E	D	C	B	A		A	B	C	D	E													
② FDI法	<table border="1"> <tr><td>55</td><td>54</td><td>53</td><td>52</td><td>51</td><td> </td><td>61</td><td>62</td><td>63</td><td>64</td><td>65</td></tr> <tr><td>85</td><td>84</td><td>83</td><td>82</td><td>81</td><td> </td><td>71</td><td>72</td><td>73</td><td>74</td><td>75</td></tr> </table>	55	54	53	52	51		61	62	63	64	65	85	84	83	82	81		71	72	73	74	75
55	54	53	52	51		61	62	63	64	65													
85	84	83	82	81		71	72	73	74	75													
③ ADA法	<table border="1"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td><td>E</td><td> </td><td>F</td><td>G</td><td>H</td><td>I</td><td>J</td></tr> <tr><td>T</td><td>S</td><td>R</td><td>Q</td><td>P</td><td> </td><td>O</td><td>N</td><td>M</td><td>L</td><td>K</td></tr> </table>	A	B	C	D	E		F	G	H	I	J	T	S	R	Q	P		O	N	M	L	K
A	B	C	D	E		F	G	H	I	J													
T	S	R	Q	P		O	N	M	L	K													

図1 歯式

上下左右の歯を、永久歯では数字、乳歯ではアルファベットで示す Zsigmondy/Palmer 法や、コンピュータ入力を可能にする表示法として歯の位置と歯種を 2 桁の数字で示す FDI 法、ADA 法などが用いられる。

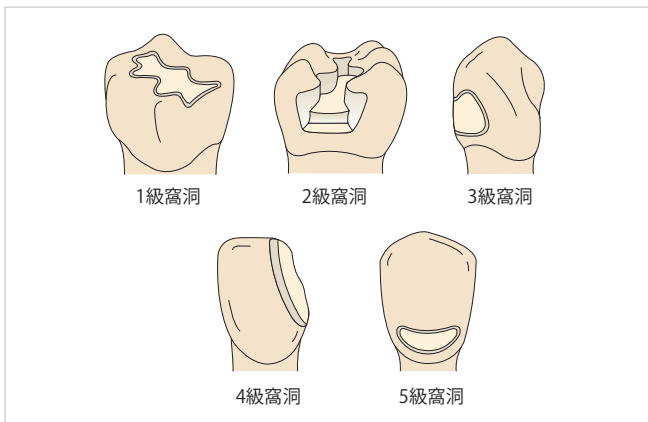


図2 Blackの窩洞分類

窩洞の形成された歯面数、形成歯面の位置、形成歯面の状態および窩洞形態によって分類される。G.V.Blackは、う蝕の好発部位とそれに対応する窩洞を5つに分類した。



- ① SNA角
- ② SNB角
- ③ ANB角
- ④ 上顎突出度
- ⑤ 下顎角
- ⑥ FH平面に対する上顎中切歯歯軸角
- ⑦ SN平面に対する上顎中切歯歯軸角
- ⑧ 上下顎中切歯歯軸角
- ⑨ 下顎下縁平面に対する下顎中切歯歯軸角

図3 セファロ分析 (基準点と基準平面)

セファロ分析として、Downs 分析法と Northwestern 分析法の 2 通りの代表的な分析法がある。前者は FH 平面基準、後者は SN 平面基準で、いずれも骨格系と歯系の双方の評価が可能である。

数字・ギリシャ文字

1 α , 25(OH) ₂ D ₃	28
18 months old child dental check-up	29
2% NaF 溶液	314
2% sodium fluoride solution	314
3 year old child dental check-up	169
5 disease 5 project	152
5-HT	250
5-hydroxytryptamine	250
8020 movement	330
α receptor antagonist	23
α 遮断薬	23
α 半水石膏	23
β -blocker	369
β -lactam antimicrobial agent	369
β -oxidation	369
β 酸化	369
β 遮断薬	369
β 半水石膏	369
β ブロッカー	369
β -ラクタム系抗菌薬	369
γ -aminobutyric acid	92
γ -carboxyglutamic acid	92
γ アミノブチル酸	92
γ アミノ酪酸	92
γ カルボキシグルタミン酸	92
ω -3 fatty acids	50
ω -6 fatty acids	50

A

a measure of the central tendency	269
a method of rotary	428
a system of rotary	428
A-splint	44
Aa 菌	44
abrraction	20
abnormal number of roots	183
abnormal pulpal horn	27
ABO incompatibility reaction	122
ABO-Rh blood type test	121
about dietary guidelines	216
abrasion	388
abrasive point	20
abscess	323
absolute pocket	225
absolute refractory period	247
absorbable hemostatic	103
absorbable membrane	103
absorption	102
absorption of nutrients	43
abuse	101
abutment build-up	192
abutment preparation	192
abutment tooth	27, 142, 192
acceptable daily intake (ADI)	29, 44, 245
access cavity preparation	229
access hole	16
accessory cusp	354
accessory groove	353
accessory point	382
accessory ridge	355
accessory root canal	354
accident	16
accident prediction training	96
accidental ingestion	131, 153
accidental pulp exposure	112
accidental symptom	112
accumulation	281
acellular cementum	394
acesulfame K	17
acesulfame potassium	17
acetaminophen	17
acetylcholine	17
acetylsalicylic acid	17
acid	168
acid decalcification theory	171
acid production ability	170
acid red	17
acid-base balance	168
acidulated phosphate fluoride solution	45, 170, 418
ACLS	44
acquired immunity	77

acquired immunodeficiency syndrome (AIDS)	41, 146
acquired pellicle	17, 77
acquisition stage of capture food at lip	382
acquisition stage of chewing function	235
acquisition stage of squashing function	60
acquisition stage of swallowing function	53
acromegaly	254
acrylic resin	16
acrylic resin base	422
acrylic resin tooth	422
act	379
act concerning the promotion of community health-care and caregiving	31
act concerning the promotion of dental and oral health	176
act on assurance of medical care for elderly people	149
act on prevention of elderly abuse and support for attendants of elderly persons	149
act on public health nurses, midwives and nurses	381
act on securing quality, efficacy and safety of products including pharmaceuticals and medical devices	30, 403
act on social welfare for the elderly	426
act on support for persons with developmental disabilities	332
act on the protection of personal information	153
act on welfare of mentally retarded persons	282
act on welfare of physically disabled persons	226
ACTH	44
actin filament	16
actinomycosis	77
action	146

action potential	81	adenosine 5'-triphosphate	134
activated C1 unit	81		19, 45
activation of swallowing function	53	Adenovirus	19
activator	16	adequate intake	397
active center	81	ADH	44
active denture guidance	322	ADHD	44
	322	adherence	19
active guide	16	adherent plaque	356
active immunity	322	adhesin	19
active occlusal guidance	322	adhesive material	356
	322	adhesive monomer	247
active oxygen	81	adhesive protein	247
active vitamin D	80	adhesive resin splint	247
activities of daily living (ADL)	44, 314	adhesive restorative material	247
acute action	103	ADI	44
acute alveolar abscess	103	adjacent tooth	418
	103	adjunctive oral hygiene devices	238
acute apical abscess	103	adjunctive oral hygiene devices	382
acute caries	103	adjustable articulator	285
acute exposure	104	adjuvant chemotherapy	204
acute infection	103	ADL	44
acute inflammation	103	adolescent growth	187
acute intoxication	104	adrenal crisis	354
acute periostitis	103	adrenaline	19
acute poisoning	104	adrenergic agonist	19
acute serous apical periodontitis	103	adrenergic blocking agent	131
acute serous pulpitis	104	adrenergic nerve	19
acute simple apical periodontitis	104	adrenocortical hormone	355
acute simple pulpitis	104	adrenocorticotrophic hormone (ACTH)	44, 355
acute suppurative apical periodontitis	103	adult dental health	238
acute suppurative gingivitis	103	adult guardianship	240
acute suppurative pulpitis	103	adult guardianship system	240
	103	adult orthodontics	238
acyclovir	17	adult-type swallowing	237
Adams clasp	18	adulthood	238
adaptive behavior	294	advanced aged	149, 425, 427
ADA 規格	44	advanced cardiac life support (ACLS)	44, 313
ADCC	45	advanced treatment hospital	303
Addison disease	17	adverse drug reaction	404
additional fee for maintenance and management of oral function	136	adverse effect due to improper tooth brushing	361
additional fee for the intervention to maintain oral intake in nursing home	118	advocacy	19, 130
	118	advocacy for rights	130
additional tooth	78	advocate	19
additive effect	257	AED	44
adenoid cystic carcinoma	256		
adenoid hypertrophy	18		